病棟訓練日導入とアウトカム検証

医療法人　凌雲会　稲次整形外科病院1）
独立行政法人　国立病院機構　徳島病院2）
日浅拓也1）稲次正敬1）湊省1）稲次圭1）稲次美樹子1）
高田信二郎2）

INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

＜はじめに＞

昨今、地域包括ケアシステムの確立に向けた、活動、参加という言葉に焦点が当たっている。そこで、週2回全てのリハビリプログラムを生活訓練とする病棟訓練日を定め、その導入前後で患者の在院日数、FIM効率、在宅復帰率の比較調査したので報告する。

＜対象･方法①＞

当院リハビリ対象入院患者内
病棟訓練日導入前
平成25年11月～平成26年9月の11ヶ月
病棟訓練日導入後
平成26年10月～平成27年8月の11ヶ月

上記期間内に退院した患者総数843名中
施設から施設への退院者を除くリハビリ実施全患者

＜対象・方法②＞

週2回を病棟訓練日とし、プラットホーム上での
リハビリをほぼ非実施とした。
１日のリハビリプログラムを生活活動
社会参加を中心に構成し、実施した。

＜対象・方法③＞

在院日数、FIM効率、在宅復帰率の3項目において、病棟訓練実施前11ヶ月と病棟訓練実施後11ヶ月で比較調査した。
統計分析には、JSTATを用い、Mann-WhitneyのU検定を実施した。

起立訓練

入浴動作訓練

洗濯動作訓練

園芸、畑動作訓練

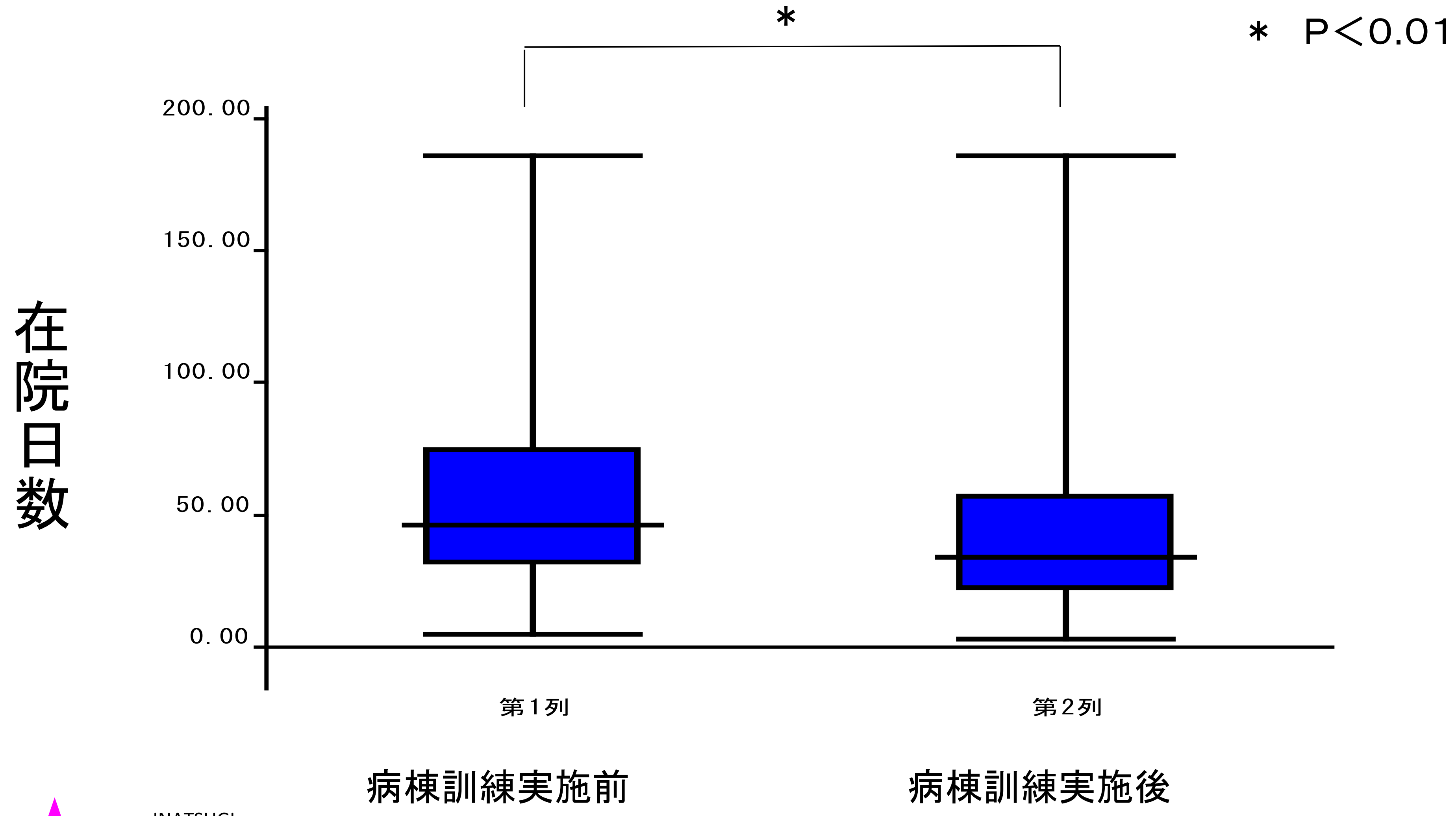
＜結果＞

病棟訓練日導入後の群は導入前の群に比べて
在院日数が有意に短かった。（P＜0.01）

病棟訓練日導入後の群は導入前の群に比べて
FIM効率が有意に向上した。（P＜0.01）

在宅復帰率には有意差が認められなかった。

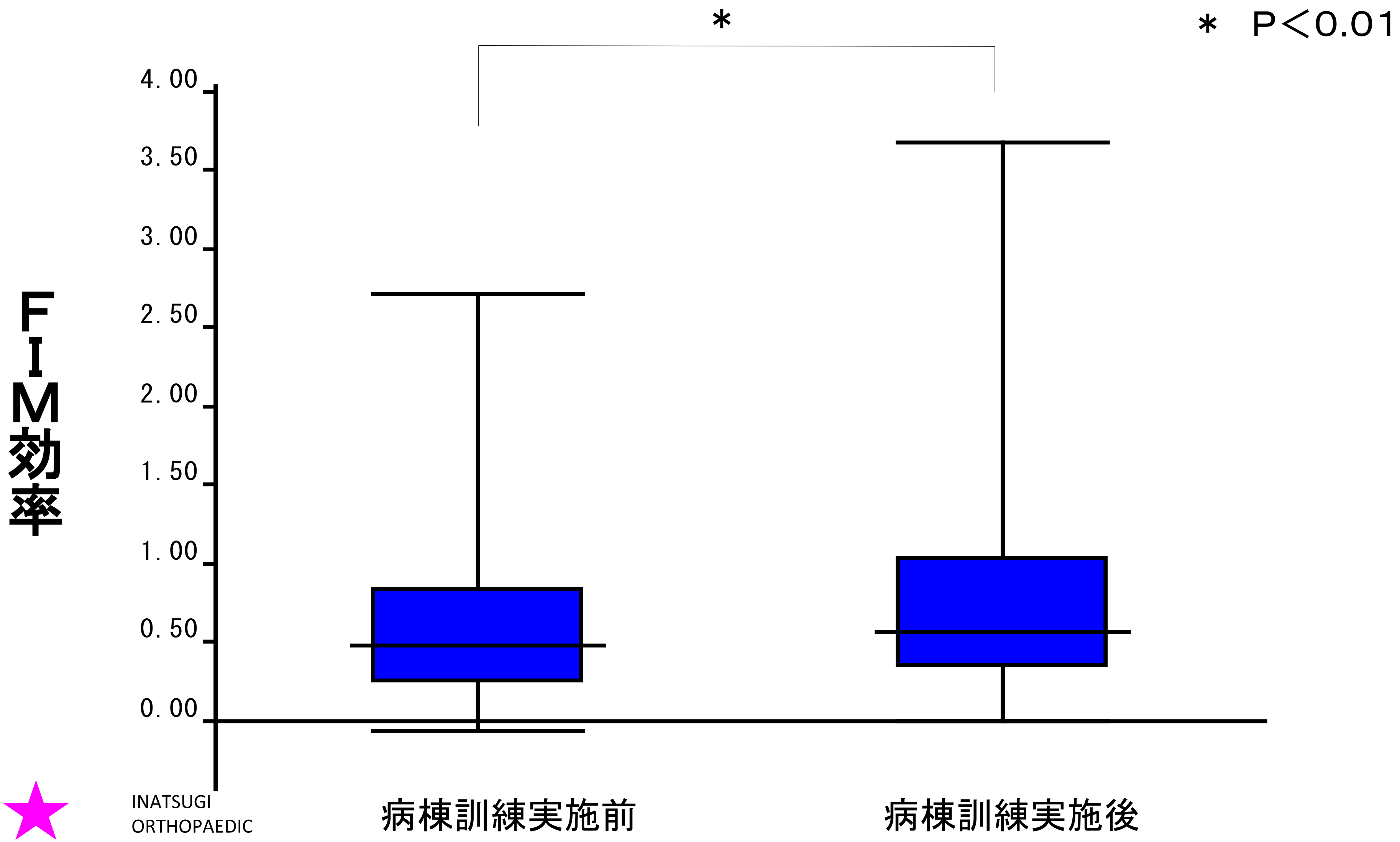
＜病棟訓練日導入前後における在院日数の比較＞



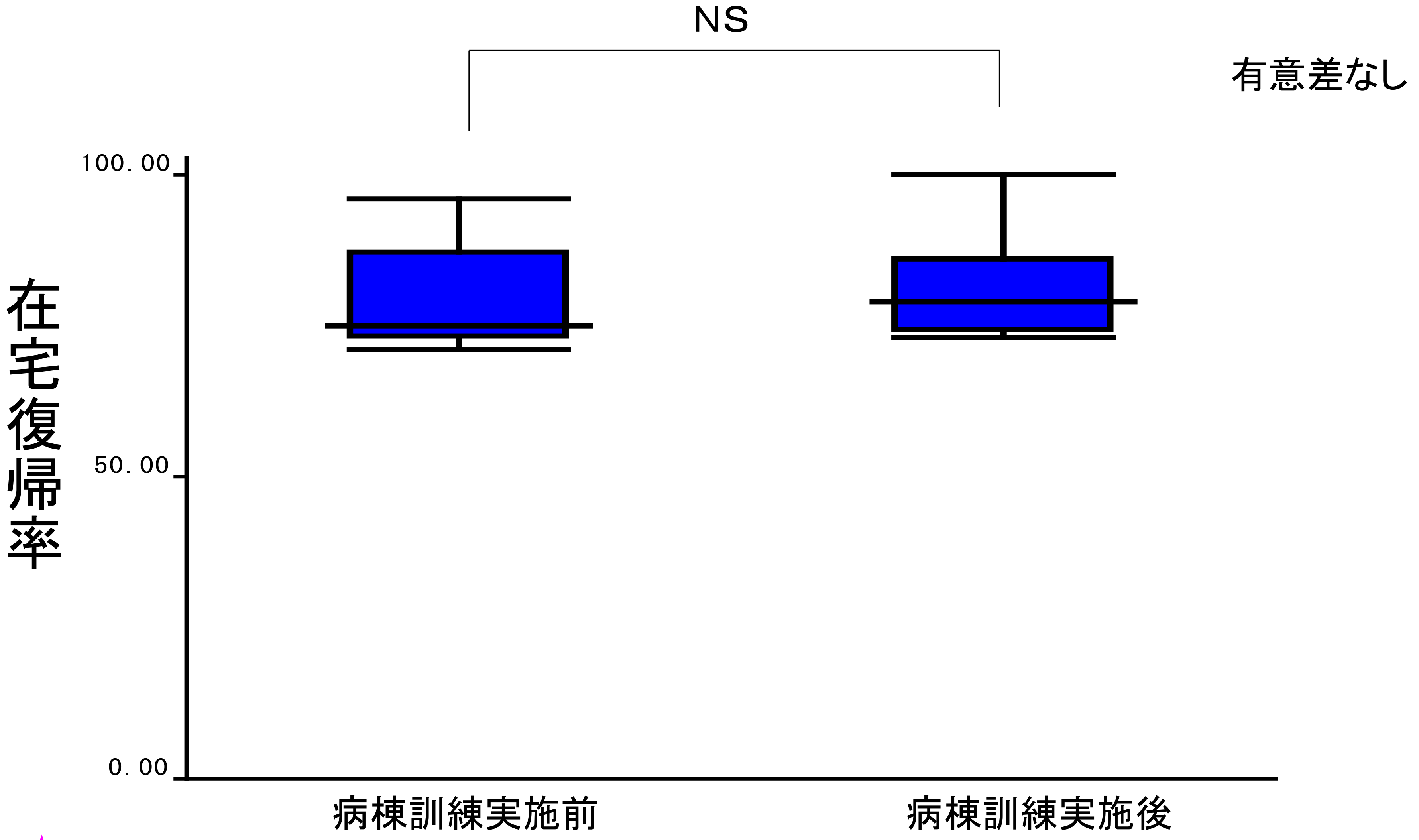
INATSUGI
ORTHOPAEDIC
HOSPITAL

医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院

＜病棟訓練日導入前後におけるFIM効率の比較＞



＜病棟訓練日導入前後における在宅復帰率の比較＞



＜まとめ＞

〇病棟訓練実施日導入以前は漫然的なリハビリプログラムを多く実施していた。

〇退院後の生活活動、社会参加に目を向けることも少なかった。

〇結果、在院日数短縮、FIM効率向上が図れた。

＜今後の展望＞

〇今回、導入前後で有意差が認められなかった在宅復帰率向上に向けたリハビリプログラム確立を目指す。

〇退院後がスタートという視点を養う。